

アドバイザー派遣実施レポート

高め合う授業を創造する会

会長 蔵増 幹夫

(三朝町立西小学校 校長)

1 研修テーマ 「問題解決的・探究的な授業づくり」

2 テーマ設定の理由

確かな「学力」を高めるために、国語科を中心に問題解決的・探究的な授業づくりをめざして共通実践していく。子どもが主体的に問題を解決していくためには、授業スキルを身につけて「自力解決」「集団解決（ペア・グループ学習）」をする中で、考えること、みんなで作り上げていくことが楽しいと感じる授業でなくてはならない。

本研修では、その授業づくりのための指導のポイントについて研修する。

3 アドバイザー 宮城教育大学教職大学院 名誉教授 相澤 秀夫 先生

4 研修の実際

○第1回目 平成27年6月19日（金） 三朝町立西小学校

研究授業については、集中の途切れない授業で「学びひたる」授業だったと講評していただいた。「大事なこと以外捨てる余計なことを取り上げないこと」「書かせることを大切に書いて書いたことをきちんと受け止めること」そして、「どの子にもチャンスを与えるために机間指導で子どもたちの考えをしっかりと見取ること」など授業づくりのポイントの指導をいただいた。

示範授業では、「授業は、個の力（可能性）を引き出し伸ばすこと」「発表は、価値ある学びをより良く共有すること」の実際を見ることができた。子どもたちが読みひたり、書きひたりながら考えたことを机間指導しながら価値づけ、意味づけをして学習意欲を持たせるとともに、座席表を活用して子どもの学びを結びつける授業スタイルを目の当たりにすることができた。日々の実践に生かせる研修となった。

○第2回目 平成27年10月2日（金） 倉吉市立明倫小学校

研究授業については、教師の範読の場面が児童が集中していて大変良かったと講評していただいた。また、授業展開の前時のふりかえりなどは割愛し、本時目標にせまる発問の精選について指導していただいた。

示範授業については、国語の教材を使って「本当の友達とは」の題材で、授業が展開された。主人公の心情を読み解く中で、児童の経験や思いが出され、普段は発言に消極的な児童をあえて、授業の中心に据え、考えを引き出しながら展開された。授業の最後に、今回考えたことが、これからの生活に役立つことを伝えられ、児童も満足感を持って学習を終えることができた。

研究協議・講義では、実際に教材のどこに発問のポイントがあるのか「説明」と「描写」の部分の違いに着目させながら、3年生の教材文を扱い、具体的に指導を受けることができ、大変参考になった。今後の教材研究の方法や日々の実践に生かせる研究会となった。